

慌ただしく、お土産物は空港で少し。お土産話は後々に。(報告 13) —おわり—

全国市議会議長会が主催した、平成21年度・海外都市行政調査団「豪州・ニュージーランドコース」に参加して、地方自治体行政も国際化の荒波の中にあることを改めて感じ取って帰った。

世界の拠点都市には、どこでも日本企業が第一線で企業活動を展開しており、名も知らなかった町や中小企業がオーストラリアやニュージーランドの都市と姉妹の契りを結び、子どもたちを前に押し出して教育、文化、スポーツなどで友好交流を実践されている事を知り、長崎も観光客を呼び込むだけでなく、打って出る気概と戦略が必要である事を実感させられた。

シドニー2泊、ウェリントン2泊、メルボルン2泊、機内2泊の慌ただしくも密度の濃い旅だったが、報告出来る調査は行えたつもりでいる。訪問した多くの都市は日本とは全く異なる行政制度であるが、民主党連立政権が「脱官僚支配」の試行を成熟し成功させる事、市議会基本条例をきちんと制定して、地方でも、「官の独善」を許さない議員集団に成長する事が急務である。そうであれば「オリンピック招致」などと言うドン・キホーテ的市長は現れなかった。この際、指導的立場でご苦勞なされた館山善一団長(青森市議会副議長)と、指原健一副団長(大分市議会副議長)に心から感謝し、一連の報告を閉じたい。また、「カンタス」は成田～シドニー～ウェリントン～メルボルン～シドニー～成田へと一行28名の安全を保障してくれた。有難う。

